



森林ふれあい情報

平成26年10月
第32号

中部森林管理局木曾森林ふれあい推進センター
〒397-0001 長野県木曾郡木曾町福島1250-7
TEL:0264(22)2122 FAX:0264(21)3151
E-mail:kiso-fureai@rinya.maff.go.jp

ボランティアによる木曾駒ヶ岳 植生復元事業

中央アルプス木曾駒ヶ岳頂上周辺では、登山者の踏み荒らしや、大量の降雨、降雪、強風による砂礫の移動等により高山植物の生育地が荒廃し、貴重な高山植物の衰退が懸念されています。

このような植生の衰退を食い止めるため、9月11日（木）にボランティア及び関係者46名が参加し、植生マット敷設による植生復元作業を実施しました。



マットの運搬

今年度の実行箇所は、頂上山荘横、駒飼ノ池登山道周辺、伊那前岳八合目周辺で、敷設面積は新規が132㎡、補修が24㎡（H19年度と20年度に実施した箇所）で、合わせて156㎡を実施しました。

作業当日は途中天候が急変し、雨やヒョウが降る中で一時は作業することもありました。



作業中

本作業は17年度を皮切りに昨年度までに、延べ1,811㎡（補修を含む）が実行されてきました。

植生マットの敷設、高山植物保護の看板を設置したこと等により、登山者による踏み荒らしの回避、表土の流出防止、砂礫の移動を最小限にとどめる等の効果があり、木曾駒ヶ岳の植生が徐々にではありますが着実に復元して来ています。



参加者

「木曾駒ヶ岳ボランティア作業」 10周年記念講演会

木曾駒ヶ岳における、ボランティア等による植生復元作業が始まって、今年で10年となることからこれまでの活動及び、植生の現状と復元に向けた取り組みにおける効果について、広く一般市民の皆様にご理解していただくと共に、今後における植生復元作業に参加していただくことを目的に、10周年記念講演会を開催しました。

9月26日に駒ヶ根市文化会館小ホールにおいて13時から、岩本所長の司会で始まり、中村森林整備部長のあいさつの後、当センターの小林自然再生指導官より10年間の活動報告を行いました。

続いて講演会に移り、最初に信州大学名誉教授の土田勝義氏による、「高山帯の植生復元を考えるーいくつかの事例を通して」と題して、木曾駒ヶ岳や他の場所での植生復元事業の事例を紹介しながら高山帯における植生復元について講演いただき、次に中央アルプスの自然を愛する会、副会長の堺澤清人氏による「植生復元の思い出と木曾駒ヶ岳の歴史」と題して、10年間の思い出話や、木曾駒ヶ岳の歴史、木曾駒ヶ岳特有の植生について講演いただき、最後に平成24・25年度に木曾駒ヶ岳の植生復元対策調査を実施した、株式会社グリーンシグマの佐々木博昭氏による「木曾駒ヶ岳における植生復元対策ー作業の経過と植生回復の現状についてー」と題して、モニタリング調査の内容や、植生の種類、過去に植生マットを敷設した箇所現在の状態等について講演いただき、それぞれの方から大変貴重なお話を聞くことができました。

この10年間に植生復元作業に参加された多くのボランティア、関係者の皆さんに感謝するとともに今後も引き続き植生復元対策を実施していきたいと思っております。



講演会の様子

阿久比高校森林ボランティア

愛知県知多郡阿久比町にある県立阿久比高等学校の生徒39名と教師5名が、8月8日に長野県西部地震被災地の「国民の森」で森林の復旧を目指して小雨の降る中除伐作業を行いました。

被災地王滝村での作業は平成9年から毎年作業をしており、今回で18回目になります。

学校では、「優しい人がボランティアをするのではなく、ボランティアをする中で優しくなっていく」との考えの基、各種のボランティア活動を行っています。

木曾森林管理署の職員から長野県西部地震の説明を受け、当センターの職員とインターン学生も加わり6班に分かれて実施しました。短い時間でしたが慣れないながらも手ノコを使い職員の指導の下、次々と除伐作業を行いました。

作業後はみんなのさわやかな笑顔がとても誇らしげで、無事に作業を終えました。



班毎に除伐作業地へ



汗を流しながらの除伐作業

教職員を対象とした森林・林業 体験学習会

8月7日(木)に木曽森林管理署管内の赤沢自然休養林ほかで、木曽・上伊那地域の教職員を対象とした「森林・林業体験学習会」を実施しました。

この学習会は、児童・生徒を教える立場である小・中学校の教職員向けに、森林・林業について理解を深めてもらうとともに、森林環境教育の重要性やその知識を高めてもらうことを目的に、長野県と共催により平成14年度から実施しているもので、今回で13回目の開催となります。

当日は、木曽地域の教職員8名、関係者7名、計15名で学習会を開催しました。

午前中は、職員による案内で、自然休養林内を散策する中で、木曽地域の森林・林業の歴史や赤沢自然休養林の生い立ち、並びに林業遺産である木曽森林鉄道の説明に聞き入ったり、実際に樹齢約350年にもなる木曽ヒノキやサワラなどの木曽五木を観察し、それぞれの樹種の見分け方や特徴を学びました。



職員の説明に聞き入る教職員の皆さん

午後からは、休養林近くの小川入国有林64ほ林小班で、教職員自ら獣害(クマ)被害防止テープ巻き作業体験をしました。

1人それぞれ防止テープ、カッターを手にして、樹齢30年近い人工林ヒノキのクマ被害防止テープ巻きに汗をかきました。

この体験をとおり、林業と獣害の関係を知り勉強になったとの声も聞かれました。

続いて、焼笹貯木場及び上松町にある製材工場を見学し、天然林と人工林の価格の違いや材の使い道など搬出した木材の流通や加工の流れを学びました。



テープ巻き作業体験の様子

参加した先生からは「地元の森林の歴史や林業を知ることができ、大変有意義であった。学校でも森林に関する授業があるので、学んだことを他の先生や生徒に還元したい。」などの感想が多く寄せられました。

今回は、先生のみでの参加でしたが、来年度は、児童・生徒も参加できるようPRに工夫して計画していきたいと考えています。



写真上下：貯木場・製材工場見学の様子



みよし市友好の森

ふれあいツアー支援

愛知県みよし市は、森林保護、環境保全等の啓発や水源地に住む人たちとの交流を図ることを目的に今年も木曾町三岳地区内の「みよし市友好の森」(平成12年1月御岳黒沢国有林841林班の一部を水源林として取得)において「みよし市友好の森ふれあいツアー」を9月20日に実施しました。

今年は、市民、親子連れ等一般参加者が30名、みよし市・木曾町ほか関係者を含めて総勢60名が参加しました。

少し肌寒い天候でしたが、昼食時に木曾町から差し出された豚汁で体が温かくなった後、参加者は、班別に指導員の案内で、森林散策を楽しんだり間伐体験に汗を流し、交流を深めました。

当センターは木曾森林管理署職員とともに間伐体験の指導や森林散策の講師を担当する等支援をしました。



森林内歩道での散策の様子



間伐体験の様子

森林ボランティア作業支援

NPO法人「地球緑化センター」では、「山と緑の協力隊」と題し、市民参加による森づくりを進めています。平成8年に上松町小川入国有林に「ふれあいの森」を設定して以来、毎年、当箇所ボランティアによる森林整備を実施しています。

今年も6月の実施に続き、本年度2回目の森林整備を9月6～7日に実施しました。

両日の参加者は老若男女28名で、東京、神奈川など都市圏の方が多く参加されていました。

作業現地は、集合場所から森林内の歩道を歩くこと約1時間半のところであり、1日目は、汗ばむ陽気の中、参加者は樹齢300年を越す木曾ヒノキの森で、生育する樹木の名、見分け方を学びながら作業現地に着き、安全指導、作業手順の説明を受けた後、7人グループに分かれて樹齢約50年生の人工林ヒノキの間伐を行いました。

2日目は、朝から小雨で心配でしたが、徐々に回復し曇りの天気の中、安全第一を心がけて作業を実施しました。

当センターは木曾森林管理署と連携を図り、間伐の作業手順・安全作業等の指導及び器材の貸し出しを行いました。



ボランティアの皆さん



間伐作業の様子

旧帝室林野局木曾支局庁舎 復元

木曾町では、平成22年に旧森林技術第一センター庁舎及び敷地を中部森林管理局から買い受け、昭和2年当時の状態に復元する工事を進めていましたが、この度、工事が終了し、7月19日に復元された旧庁舎の開館式が開催されました。

戦後、昭和22年からは、林政統一により新設された長野営林局の庁舎として使用されており、森林鉄道や集材機の導入などの林業の近代化や長野県周辺の御料林、国有林野の管理経営の拠点となってきました。昭和31年からは福島営林署等として使用され、80年程度の長期に亘る林野行政の歴史を積み重ねてきました。

庁舎の復元は、建築当時の設計図や写真を参考に進められ、間取り、局長室の壁板、照明器具、扉の金具などの形状、色、質感の再現にこだわったとのこと。

庁舎の一階は郷土料理の研究や木育スペースとして利用され、二階は展示室として御料林に関する資料や木曾檜で作られた木曾谷模型や動植物の剥製、標本等の資料が展示され、気品ある局長室や大会議室も見所です。

開館の準備には、国有林の先輩の方々が多く参加されており、開館日当日も周辺の散策ガイドなど裏方で活躍されていました。木曾町においでの際は、是非お立ち寄りください。(見学無料 9時～17時まで 月曜日は休館日)



旧 帝室林野局木曾支局庁舎



木曾谷の模型

みどりの少年団交流会支援

木曾地域のみどりの少年団が一堂に会し、緑豊かな自然の中で互いに交流し、共同作業や森林・林業その他自然に関する学習活動を通じて相互の連携を深め、緑豊かな心をは育むことを目的とした木曾地区みどりの少年団交流集会在7月30日、県木曾地方事務所の主催で開催され、当ふれあいセンターも作業指導のために参加しました。

当交流会は木曾地域の町村で毎年実施されているものですが、今年は木曾町木曾駒森林公園を会場に12団体、約150名の団員が参加しました。

団毎によるみどりの少年団活動発表や、木や山に関するフィールドビンゴ、燻製造り等を実施し交流を深めました。



活動発表とフィールドビンゴ